

# 技術・家庭科〔技術分野〕

今、  
生物育成が  
オモシロイ！

技術を適切に評価し活用する能力と  
態度を育てる指導の工夫

～作物の栽培における“費用対効果検討書”づくりを通して～

技術・家庭科班 吉田 忠広 (中学校教諭)

## 新学習指導要領準拠

題材「エダマメの栽培をしよう～手づくり野菜を食卓へ！～」

生物育成に関する技術の適切な評価・活用に関する指導

### <研究のねらい>

生物育成に関する技術の学習における題材「エダマメの栽培をしよう～手づくり野菜を食卓へ！～」の指導において、家庭菜園における“費用対効果検討書”づくりを行う活動を取り入れることが、生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する上で有効であることを明らかにする。

### <成果と課題>

野菜づくりの費用や購入する際の価格だけでなく、安全性や栽培の楽しさ、環境への配慮など、多面的にとらえ、生物育成の可能性や理想とする社会や環境など、生物育成に関する技術について自分なりに考え生かそうとする姿を見て取ることができた。



## <“費用対効果検討書づくり”>

### ①現状の把握

わが家の野菜事情等についてまとめました！  
手だて1:「消費状況調査」の活用

私の家では、野菜の半分くらいを家庭菜園でつくっています。主に根菜類を中心につくっています。無葉野菜を栽培に手間がかかるとは、スーパーや農産物直売所で購入します。購入した野菜のほとんどは冷蔵庫を確保し、室温を根菜類にものは風通しのよいように保存します。これは、じかにもやぶらばは常温のほうが持ちがいいからです。私の祖母は、米を主につくっている農家のため、米を買いに来る人に分けたり、逆にさゆりやなすとをあげたりもしています。身に入れた野菜は、サラダにしたり、みじん切りにして、お肉や汁の具にしたり、野菜いためにはしたり、さまざまな料理へと変えています。しかし、最近では量作りが多くあり、買ってしまった野菜が、放置して結果腐らしてしまったりあります。今何の野菜がある、何の野菜がないのかがしきりに考えて、それを忘れない野菜をいかに家庭菜園の野菜とスーパーで買った野菜は、場合によっては手に入るかもしれない。農産物を使う場合には、やはり高いところ、スーパーで買った野菜が得だと思ったり、場合によっては思っています。

### ②課題の明確化

費用対効果 8/8

品名	単価	数量	金額
エダマメ (1kg)	250円	1kg	250円
ピーマン (1kg)	150円	1kg	150円
ナス (1kg)	100円	1kg	100円
ズッキーニ (1kg)	120円	1kg	120円
合計			620円

家庭菜園とスーパーとを比較・検討しました！  
手だて2:「費用等の計算」の活用

将来はニンジンを生産する農家になりたい・・・  
生物育成に関する技術の課題をとらえ解決策を検討できた！

### ③解決策の検討



### <注目のワークシート>

未来予想図Ⅲ～よりよい社会を築くために～  
生物育成に関する技術と社会や環境とのかかわりについて、生徒一人一人が考えをまとめた！

自分たちが消費する食料は自分たちで生産する。それが私の提案する未来の農業スタイル・・・  
生物育成に関する技術の課題を社会・環境・経済の側面から、検討、自分なりの考えをもつことができた！

季節の作物を家でつくってみたい・・・  
生物育成に関する技術の現状をとらえることができた！

